

検疫医療専門職のご案内

◆感染症を早期に見つける「検疫医療専門職」

海外には、国内では見られない種々の感染症があります。

人や物の移動が大量・高速化し、感染症は急速に世界に拡がるおそれがあります。2003年のSARS(重症急性呼吸器症候群)、2009年のH1N1型新型インフルエンザの世界的な流行は記憶に新しいところです。

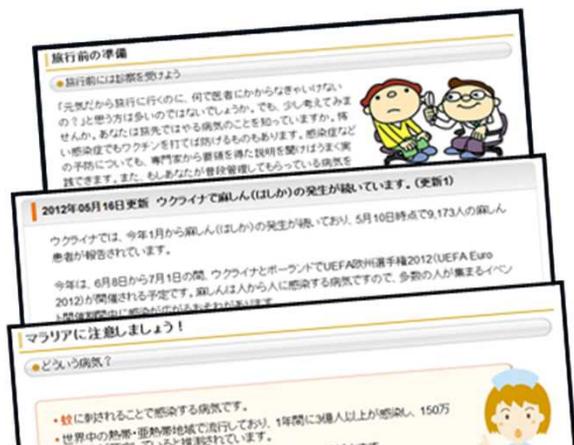
現在は、中国での鳥インフルエンザA(H7N9)や中東のMERS(中東呼吸器症候群)等の感染拡大が懸念されています。

私たちは、海外で発生している感染症を早期に発見するために、入国時に感染症が疑われる方の診察・検査や、体調がすぐれない方からの健康相談に対応しています。



海外の感染症の流行状況は日々変化しており、感染症の疫学、診断、治療等に関する新たな知見も集積されています。世界の最新の情報を収集し、渡航される方々へ提供しています。専門的な情報を、できるだけわかりやすく提供することが私たちの役割です。

「[FORTH \(海外で健康に過ごすために\)](#)」というホームページで、感染症などの情報提供を行っているほか、各検疫所でもそれぞれのホームページで情報提供を行っています。



国内にはない感染症への対策は、国の危機管理としても大変重要です。

世界には致死率の高い感染症や人から人に容易に拡がるおそれのある様々な感染症があります。

これらに迅速に対応するためには、日常からの備えが重要であり、検疫所では様々な訓練を実施しています。

このような訓練の企画や立案も、私たちが中心になって行っています。



◆ 検疫医療専門職の勤務例



【検疫業務及び健康相談業務】

国際線で到着した乗客について、サーモグラフィーによる発熱反応のチェックや、有症者の診察・健康相談などを行います。

また、渡航する方々の健康状態（年齢、基礎疾患、予防接種歴など）や渡航先、渡航期間、渡航先での活動などに応じて、電話や空港等で個別に健康相談を行っています。

感染症だけでなく、高山病、航空性中耳炎、虫刺され、日焼けなどの相談にも、渡航医学全般の知識を活用して対応しています。

【検疫感染症の検査】

サーモグラフィーで発熱反応を認めた方や有症者について、渡航状況などに応じて検査を実施します。

- ・ 血液検査：マラリア、デング熱、チクングニア熱
- ・ 咽頭ぬぐい液検査：鳥インフルエンザ(H5N1, H7N9)



【予防接種業務】

検疫所では、海外に渡航する方々に黄熱等の予防接種を行っています。私たちは予診や接種を行うほか、副反応が出た場合の対応方法、他の予防接種との組み合わせなどの相談にも対応しています。



◆ キャリアとライフスタイル

検疫医療専門職は、国家公務員としての身分が保障されています。

日々の検疫業務のほか、検疫所の業務を管理・運営する経験を積んでいき、所長や課長等の幹部に任用される候補職員でもあります。

検疫医療専門職の1週間あたりの勤務時間は決められており、時間外の緊急の仕事が少ないなど、仕事のオン・オフがはっきりしています。

子育て中に利用できる勤務時間の短縮制度をはじめ、男女を問わず利用できる様々な制度があるほか、家族の介護をしている職員にも利用できる制度が整備されています。



検疫医療専門職が、感染症などに関する研修に参加できる機会も多くあります。

「感染症に興味がある」「飛行機・船が好き」「勤務形態が自分に合っている」
・・・検疫医療専門職として勤務している方々のきっかけは様々でした。